

浜町から 風の便り 45 2022/7/1. 船橋市浜町 辻 秀幸

アブラゼミ (昆虫綱カメシ目ゼミ科)

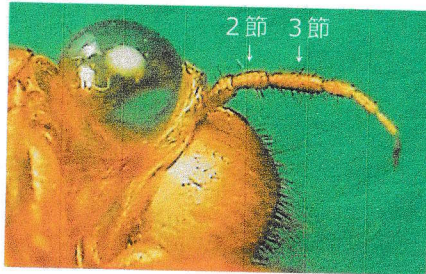
手持ちの図鑑に、アブラゼミの雌雄やほかのゼミとの見分け方が、わかりやすく説明してある。では実物を写してみよう。

触角 (ぬけがら)



⇐ 2020/8/5. 船橋・浜町1. 「浜町公園」

2020/8/17. ⇨ 船橋・浜町2. 「正一位伏見 稲荷大明神」

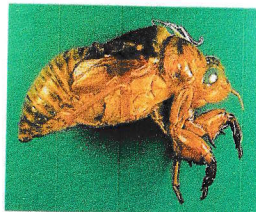


右触角

抜け殻で、節に分かれている触角の根元から2番目と3番目の長さ。3番目が2番目の1・5倍長いのがアブラゼミ。ほぼ同じなのがミンミンゼミ、だそうです。写真の抜け殻は確かにアブラゼミということになります。ずいぶん細かい所をよくもまあ観察したものだと感心する。

触角は簡単に折れてしまう。持ち帰るとき、撮影の時、気をつけましょう。

前脚 (ぬけがら)



⇐ 2020/8/17. ⇨ 船橋・浜町2. 「正一位伏見稲荷大明神」



右前脚

ぬけがらで、前脚にある中歯と前歯とが接近しているのがアブラゼミとミンミンゼミ。離れているのはエソゼミやクマゼミ。エソゼミもクマゼミも見たことがないので、この写真だけでは離れているのかくっついているのか判断できない。図鑑の説明図と見比べるとこれは接近している方となる。比較対照することで、特徴とか違いとかが見えてくる。あなたも私も唯一無二の存在、というけれど大勢の中でそれは見えてくる。無人島に一人流れ着けば確かに唯一無二だけれどもねえ。

産卵管 (ぬけがら)

2021/7/19. ⇨⇨ 船橋・浜町1. 「浜町公園」



2021/8/10. ⇨⇨ 船橋・浜町1. 「浜町公園」



⇐ オス ⇨ メス

メスは卵を産む。産卵管が必要だ。だから、お腹の末端近くに「産卵管のもと」があるのがメス。私の人生経験からの知見では、こういう形の物があるのはオスだと思っていた。見かけで判断してはいけないのだ。

浜町でみつける抜け殻はたいていメスで、オスを見つけることは少なかった。そして、それは全部アブラゼミ。ミンミンゼミは鳴き声は聞くけれど抜け殻はついにみつけられなかった。

腹弁

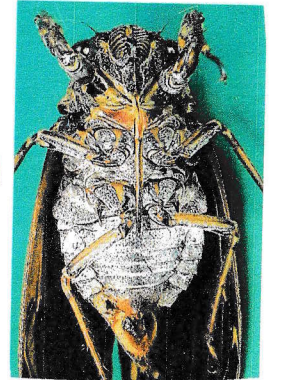
産卵する前にメスはオスと出会わなければならない。オスが鳴いて合図を送る。そのための器官が腹弁 (ふくべん)。従いまして、腹弁があればオス。



オス 2016/9/9. 船橋・浜町1. 路上

メス 2019/8/9. 船橋・浜町1. マンション前

「メスにもあるが小さい」と最初はまとめた。図鑑などで改めて確認すると「無い」としているものがあって慌てた。「小さい」と表現している資料もある。メスの体内には音を出す仕組みは無い、という説明からすると腹弁も無い、とするのが日本語としての解釈だろう。セミ学(?)ではどうなっているのだろうか。



セミは七日の命。とよく言われるが、実際には1か月ほどらしい。そしてそれは地上に出てからのこと。地中でアブラゼミは6年間ほどを過ごす。その幼虫で過ごす期間もセミの生活なのだ。せっかく明るい地上に出られたのに短い命でつまらないだろう、暗い地中では退屈だろうというのは人間が勝手に想像するだけのこと。地中と空中と、面白いのはどちらかな。